

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

日銀期待がドル下支え

<ポイント>

- ・昨日は、ギリシャ債務交渉団の再編を好感してユーロが上昇した。
- ・豪ドルやその他高金利通貨も、一般的に上昇した。
- ・ドル/円は蚊帳の外だったが、日本国債格下げを受けて 119 円台半ばへ一時強含んだ。
- ・本日は英 1Q GDP とポンドが注目で、予想比上振れの場合はポンド/ドルの上昇基調が強まりそうだ。
- ・29 日は米 1Q GDP と FOMC が注目され、弱い GDP とハト派的な声明文を織り込みドル続落のリスク。
- ・米ドル安となる場合、恩恵を受けやすいのはポンド、ユーロや豪ドル。
- ・他方、ドル/円は、30 日に日銀決定会合を控え下値が限定的に。

昨日までの世界:債務再編ではなく、債務交渉団の再編

昨日は、ギリシャの債務交渉チーム再編が好感されユーロが小幅上昇したほか、トルコリラ、ブラジルレアルや南アランドなどの高金利新興国通貨も上昇、対価としてドルと円が売られる展開となったのが特徴的だった。

ドル/円は、先週金曜の米耐久財受注の下振れを受けたドル安の流れを引き継ぎ、東京時間朝方には 118.78 円へ続落した。もともと、欧州時間にはドル買戻しの動きから 119 円台を回復した後、格付け機関フィッチが日本国債を 1 段階格下げしたことから、119.43 円へ上昇した。もともと、その後はギリシャの債務交渉チーム再編を好感したユーロの対ドルでの上昇の影響を受けドル安となり、119 円丁度近辺へ反落した。

ユーロ/ドルは、ギリシャが成果が出ない債務交渉チームを再編し、強硬姿勢を貫いてきた Varoufakis 財務相の影響力を低下させることとしたため、債務交渉が進展するとの期待が高まり、一時 1.0927 ドルへ上昇した。ユーロ/円も同様に、129 円丁度近辺から一時 129.98 円へ上昇した。

豪ドル/米ドルも、ユーロ/ドルの上昇とほぼ同じタイミングで 0.782ドルから 0.7872ドルへ上昇、豪ドル/円も豪ドル/米ドルと共に 93 円丁度近辺から 93.78 円へ上昇、が上昇したことから方向感が出ず、93 円丁度を挟んだもみ合いとなった。

きょうの高慢な偏見: 日銀期待がドル下支え

[今週の見通しはこちら\(4月24日付FX戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

本日は英 1QGDP が、本邦休場の明日 29 日は米 1QGDP および米 FOMC が注目材料だ。

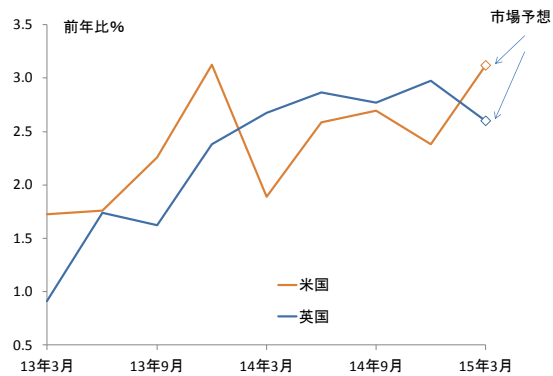
英 GDP について市場では、前期比では+0.5%と前期(+0.6%)と同程度の速度での成長が予想されている一方で、前年比では前期の+3.0%から+2.6%へ鈍化すると予想されている。足許ポンド/ドルが(英総選挙を控えているにも拘らず)上昇基調に入りつつある中で、多少の上振れでもポンドは大きく続伸しそうだ。

ドル/円は、本日の米消費者信頼感指数や S&P ケースシラー住宅価格よりも、29 日の米 1QGDP と米 FOMC に注目が集まりそうだ。GDP について市場予想は前期比年率+1.0%となっているが、これまでの月次経済指標の悪化を受けてゼロ成長に近い弱い結果を事前に織り込む動きがみられそうで、ドルじり安となりそうだ。FOMC でも、利上げに向けた具体的な動きはまだ出てきそうにない中で、最近の経済指標の鈍化を反映したハト派的な景気認識となるリスクがあり、こちらもドル安要因となり、再び 118 円台もありそうだ。但し、翌 30 日に日銀決定会合を控えていることもあり、ドルの対円での下落は限定的な状況が続きそうだ。

因みに、米国(アメリカ)と英国(ブリテン)の GDP を比較してみると、今回の米国分は、前年が悪天候により落ち込んだことから、前年比では 3%程度と比較的高い成長となり英国よりも高くなる一方、瞬間風速である前期比年率をみると、英国の方が+2%と高い見通しとなっている。但し米国分には下振れリスクがあることを踏まえると、英米間の格差は一段と大きいとみられ、ポンド/ドルの支持要因となりそうだ。

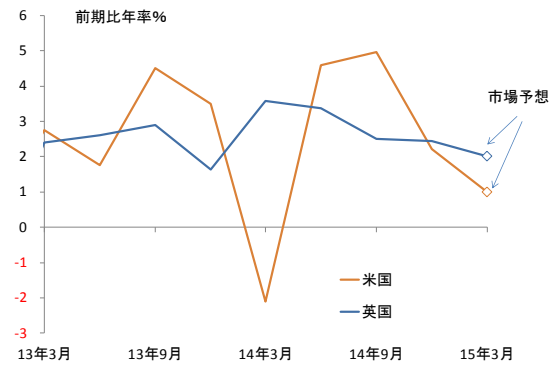
ユーロ/ドル、豪ドル/米ドルは、日銀要因がない分、米ドルの動きをより強く反映して動くことになりそうで、弱い 1QGDP やハト派的な FOMC 声明文を織り込む動きとなる場合、ユーロや豪ドルは対米ドルで堅調な動きが続きそうだ。

英米のGDP成長率(前年比)



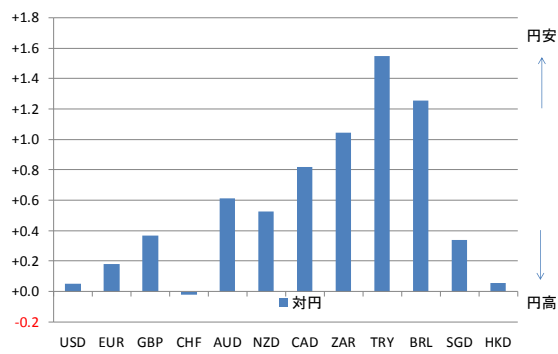
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

英米のGDP成長率(前期比年率)



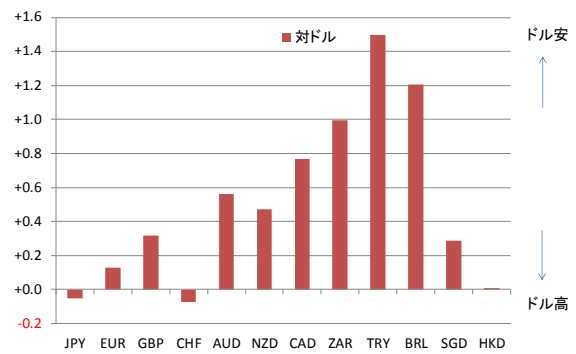
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



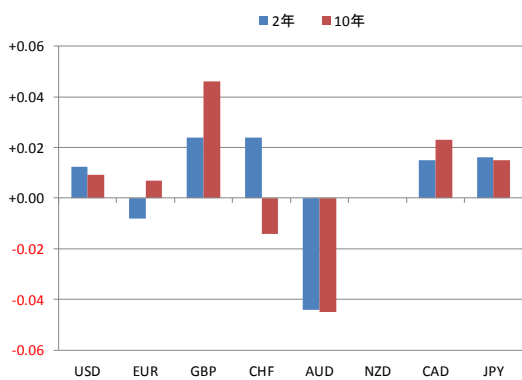
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



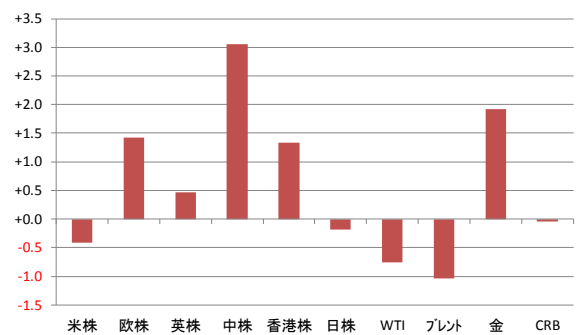
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会